

図書館とともだち

図書館とともだち・鎌倉 おしらせ No. 223

2024・1・17

きょうがしんきいちがつついたち ひ ののぼる
恭賀新禧一月一日日野昇

—正岡子規—

2024年。

おめでとうという言葉で始めることに

躊躇してしまう年明けと

なっていました。

大きな災害に胸が痛みます。

海の向うでは依然として

戦禍の続いている国があります。

震える世界に生きている私たち。

穏やかな明日が一日も早く訪れるよう

まずは祈り、そしてできることを考える。

発展の年となりますように。

○ CONTENTS ○

PAGE

☆ 本との出会い、図書館との出会い 鎌倉市教育長 高橋 洋平	…1
☆ 多摩市立中央図書館見学記	…2
☆ ゆいの森あらかわ 中央図書館訪問記	…3
☆ 2023 年度第2回鎌倉市図書館協議会傍聴報告	…4
☆ 第16回鎌倉市本庁舎等整備委員会傍聴報告	…5
☆ 今小路西遺跡・陣出遺跡の勉強会報告	…6
☆ 公共施設再編計画をどう考えるか	…7
☆ 松坡先生をめぐる人々 16 袴田潤一	…8
☆ 映画と本と図書館と 田邊恵美	…9
☆ 銀幕情報／図書館振興基金寄付報告	
☆ 全国図書館大会報告／F☆L お知らせ／ボラ協お知らせ	…10
☆ 2023年活動報告・2024年活動計画	…11
☆ 2023年度 TOTOMO 活動のご報告	…12
☆ 総会案内・会費納入のお願い・ご寄付御礼／活動日誌	…13
☆ 事務局から	…14

本との出会い、図書館との出会い

鎌倉市教育長 高橋 洋平



高橋洋平鎌倉市教育長

みなさん、はじめまして。8月1日から鎌倉市の教育長を拝命しました高橋です。「図書館とともだち・鎌倉」の皆様におかれましては、日頃から図書館の運営にたくさんのご支援をいただき、心から感謝申し上げます。

鎌倉の図書館は多くの方に支えられながら今年113年目を迎えます。コロナ禍では、図書館でも様々なイベントが中止や縮小に追い込まれ苦しい思いをしました。現在では、おはなし会をはじめ、様々な行事を再開することができ、お子さんたちの笑顔に再び接する日々がもどってきています。

私と本との出会いと言えば、これまで、尊敬する先生や先輩に本を薦めていただいたり、後輩や学生たちに本を薦め、読みあいながら切磋琢磨してきました。素晴らしい本に出合った時には、新たな自分に生れ変わったような気さえすることもありました。鎌倉の子どもたちにも、ぜひ、読書を通じて自分を変えていく体験をしてほしいと願っています。

そうした体験ができる一つの居場所として、より良い図書館サービスを提供していくための「第4次鎌倉市図書館サービス計画」、子どもたちが本に親しむ環境を整えるための「第4次鎌倉市子ども読書活動推進計画」を策定したところですが、これらの計画に沿った取組をしっかりと進めることで、「鎌倉市図書館ビジョン」である「つながるひろがる100年図書館」の実現につなげていきます。

誰もが居心地よく、過ごしやすい、また、使いやすい図書館をみなさんといっしょにつくっていきたいと考えていますので、どうぞお力添えいただけますようお願いいたします。

昨年は鎌倉市図書館の在り方や図書館の存在意義を考えるために連続講座を行い、さらに話し合いを重ねて市に対して提言書も提出しました。それらが一段落したところで、先進事例を学ぶため2つの図書館見学を行いました。

多摩市立中央図書館見学記 (11月15日)



先に訪れたのは2023年7月に開館したばかりの多摩市立中央図書館です。多摩センター駅を出てすぐ、階段に描かれた本に囲まれたキティちゃんの絵と中央図書館の文字が目を引きます。パルテノン多摩の前を右折すれば、ほどなくその堂々たる姿を現します。地上二階地下二階建ての図書館単独館です。

最初に会議室で横倉館長、司書の米山さん、施設管理担当の笹原さんから話を伺いました。同図書館の概要を話された後、事前にお送りしていた9項目の質問事項に沿って丁寧にご説明くださいました。

多摩市は人口14万8千人ほどですが中央図書館を含めて7つの図書館と1つの行政資料室の8館体制です。対して鎌倉市は人口17万2千人で5つの図書館です。多摩市立中央図書館の総面積は5400㎡。鎌倉市中央図書館のほぼ2倍となっています。多摩市立中央図書館 <https://www.library.tama.tokyo.jp/contents?pid=329>

説明と質疑の次は、いよいよ館内見学です。館長自らがご案内くださいました。スタートは2階から。ここは「広場系開架」として子ども向けの資料、ティーンズコーナー、3つの活動室などを備え、明るく賑やかなフロアです。地元ゆかりの児童文学作家である渡辺茂男氏を紹介するコーナー「へなそうるのへや」も楽しいです。2階ですが立地が傾斜地なので、公園に直結した出入口があります。



対して1階は「静寂系開架」。一般書の書架を囲む形で研究席や個人研究室、グループ研究室などが並んでいます。対面朗読室や録音室もあります。ここでは館内閲覧のみの参考資料と貸出可能な資料を、分類別に同じ書架に配架しています。テーマに沿って調べものをする時には便利かもしれませんが、静かな空間を演出するためか照明は暗めで、落ち着いてはいますが2階との落差が大きいように感じました。また、正面入り口を入ってすぐの1階と2階をつなぐステッププラザはお洒落な印象ではありますが、これだけのスペースがあればもっと他の機能を持たせることもできるように思いました。

見学のあとは、2階のカフェのテラス席で公園を眺めながらゆったりランチ。続いて活動室で「多摩市の図書館をともに育てる会」の方々と交流会を行いました。この会の母体は「多摩市に中央図書館をつくる会」で、20年来中央図書館の実現を求めて活動して来られました。TOTOMOとは以前から交流もあり、2023年1月には協働をテーマとした学習会にお招きいただきました(会報218号参照)。

市民と行政とのやりとりはどうだったのか、市民の意見はどう反映されたのか、が一番の関心事でしたが、行政サイドとは違った視点からのお話は大変興味深く、参考になりました。数名の方が検討委員会のメンバーでもあり、基本計画には関わることができたが、設計者選定には関与できなかったということです。念願の中央図書館ができたとはいえ手放しで喜ぶことはできず、これから先どのように関わっていくかを模索されているようです。

今回の見学ではその手法に学びたい点も、市民としてやらねばならないことも浮かんできました。学んだことをいかに行政に伝えていくか、それが目下の課題です。視察が相次ぎお忙しい中ご対応くださった多摩市立中央

図書館の皆様、私たちのためにお時間を割いてくださった「多摩市の図書館をともに育てる会」の皆様には感謝申し上げます。今回の見学会への参加は7名でした。

(黒瀬)

ゆいの森あらかわ 中央図書館訪問記 (12月4日)



平成29年3月26日に開館した「ゆいの森あらかわ」に令和5年12月4日、とともに会員7名で伺いました。「ゆいの森あらかわ」は中央図書館、吉村昭記念館、子どもひろばの3つの機能を持つ新しい融合施設です。その名前は、人と人、本と人、文化と人が結びつき、楽しみ学び安らげる、豊かな森のような施設となるよう名づけられたそうです。荒川区では平成30年に『読書を愛するまち あらかわ』を宣言され、令和5年4月に『荒川区 豊かな心を育む読書まちづくり条例』が施行されました。

都電荒川二丁目駅に着くと、すぐ目の前に5階建てのゆいの森が見えました。お約束の時間より早く到着しましたので、1階にあるカフェでまずは一服…。カフェでは飲食しながら読書することもでき(貸し出し前の本も)読み終わった本はカフェ内にある返却口へ返すことができます。

お約束の時間になり、ゆいの森課 司書の林さん、斎藤係長が出迎えてくださいました。ゆいの森のPR映像を拝見しながらお話を伺い、その後施設を案内して頂きました。

1階にはバリアフリーコーナー(対面音訳サービス・拡大読書機・音声読上げ機 etc)、絵本コーナー、遊びラウンジ、託児室(乳幼児一時預かり1日3h迄・1か月21h迄)、ホール(1階から2階を繋ぐ大きな階段が座席になっていて、左右の壁には多くの絵本が展示され、講演会や星空学習ができる空間、イベントがない時は閲覧席として使えます)、2階はティーンズコーナー、児童書、吉村昭(荒川区出身)記念文学館、3階は一般書架エリア、4階は芸術、教育、科学など専門書エリア、5階は学習室、研修室、コミュニティラウンジ、スカイツリーを眺めながら読書のできるガーデンテラスがあります。中心が吹き抜けになっているのですが、市松配置になっていて、違う階の気配を感じることもできるし、またそうではない空間もあるという素敵なつくりになっています。座席は全部で933席、いろいろな場所で本を手に取り、好きな席で読書に耽る、なんて幸せな時間でしょう。ここまででどんな図書館を想像されたでしょうか？



荒川区には図書館が5館、図書サービスステーションが2か所、荒川区の図書館は全館直営です。中央図書館の司書は38名、全員会計年度任用職員だと伺って驚きました。また、子供司書というシステムがあり、小学生が1年間司書の仕事を学び、学んだ子供が中学生になると、ティーンズスタッフとして図書館で活躍しているそうです。小中学校では週5日学校司書が配置され、図書館と学校図書室のやりとりは月3回行われているそうです。そしてもう一つ、館内に禁止事項をなるべく書かないようにされたそうです。来館者各々が判断するということです。

お話を伺って強く感じたことは、一番に司書の林さんの図書館に対する熱意です。その熱意をしっかり受けとめ、話を真剣に聞く斎藤係長、図書館と行政が自由に意見を交わすことができることに、羨ましさを感じました。大切なのはあくまでも区民、区民のために何をすれば良いのかとの思いと、今までにない施設を作りたいとの強い思いで創られた「ゆいの森あらかわ」でした。

林さん、斎藤係長、長い時間を割いて、お話、施設を見せて頂き、感謝いたします。ありがとうございました。

ゆいの森あらかわ <https://www.yuinomori.city.arakawa.tokyo.jp/index.html>

(古矢)

2023 年度第 2 回鎌倉市図書館協議会傍聴報告

2023/11/29 於：中央図書館 3F 多目的室

数日前？に唐突に決まっらしい本年度 2 回目の図書館協議会を傍聴しました。広報への事前告知がなく、市議さんからの情報提供を受けて慌ててメンバーに伝えましたが、私の他は 1 名のみの参加。年に 2～3 回しかない図書館協議会のあり方がこのような状況でいい筈はありません。様々な理由があつたのかもしれませんが陳謝や説明はなく、居心地の悪い思いで席にすわりました。図書館と長年協働事業を行い、傍聴を続けている図書館友の会としては誠に残念なことでした。

資料番号にそって簡単に報告します。まず、資料 1～2 を示しつつ、新中央図書館の施設整備計画の中間とりまとめが報告されました。資料 3 では、新深沢図書館も含めた二つの新図書館に関して聴取された市民意見の報告がありました。その上で、資料 5 の「図書館ビジョン」を踏まえた「図書館の考え方」が資料 4 で示されました。日々の図書館現場を担う司書職員が積み重ねてきた「図書館ビジョン」や「サービス計画」、「子ども読書活動推進計画」が、今こそ活かされるべき時と思います。

配布資料

- 1) 鎌倉市市庁舎現在地利活用基本計画 中間とりまとめ
- 2) 第 15 回本庁舎等整備委員会資料
- 3-0) 【意見交換会みなさんのアイデアをお聞かせください
- 3-1) 意見交換会での意見一覧（新中央まとめ）
- 3-2) 意見交換会での意見一覧（新深沢まとめ）
- 4) 今後の施設整備に向けた図書館の考え方
- 5) 図書館ビジョン
- 6) 基金第 16 号提案
- 7) 鎌倉市図書館サービス計画年次評価表
- 8) 市史編纂関連令和 5 年度神史協構成機関情報等調査票集計結果一覧表

資料 7 では「第 4 次図書館サービス計画年次評価表」案が示されました。新たな図書館が 2 つも計画されるという状況だからこそ、日常業務の PDCA サイクルの実施やその公表は大切ですし、庁舎新築の基本設計や実施設計が策定される際の資料として関係各位に提案頂きたいと考えます。同様に、資料 6 の「鎌倉市図書館振興基金」活用による第 16 号提案「写真・映像フィルム等資料劣化防止対策事業（計 609,950 円）」もまた広く共有されるべき内容です。近代史資料室にある貴重資料の整理や保存は、新図書館整備に直結する重要な課題です。現在の劣悪な環境を改善するためには、災害対応や温湿度管理等、その整備には一層細やかな配慮が求められると思います。

最後の資料 8 は「市史編纂関連令和 5 年度 神史協（神奈川歴史資料取扱機関連絡協議会）構成機関情報等調査票集計結果一覧表」です。これは、会報 222 号 P6 の浅見館長補佐の寄稿文「市史編さん事業と今後の課題」の中で紹介のあった資料で、県内比較をしながら鎌倉の市史編さん状況が把握できる大変興味深いものでした。市制 100 周年にむけて市史編さん事業が確実に進められると共に、その先の資料保存や、未来に続く市史編さん事業をも見据えた新庁舎建築になるよう望みます。

予定外の資料として、高野洋一議員の文書質問への高橋洋平教育長の答弁書が急遽配布されました。

「新庁舎内に設けられる新図書館に関しては、図書館法に基づく正規の機関である図書館協議会で正式に議論し意見を求めることが不可欠ではないか？」と図書館協議会への【諮問】を求める質問に対し、「令和 4 年度に 2 回、令和 5 年度に 1 回【報告】を行い意見を頂いているが、今後は継続的な【協議】をしていく」との回答でした。およそ半世紀ぶりに新たな図書館の建築計画が 2 つも同時進行しているにもかかわらず、正式な【諮問】が行われないような図書館協議会のあり方でいいのでしょうか？疑問は消えません。（阿曾）



第16回鎌倉市本庁舎等整備委員会傍聴報告

12月20日に第16回鎌倉市本庁舎等整備委員会（以下整備委員会と略）が開かれ傍聴しました。議題は「市庁舎現在地利活用基本計画（素案）について」で、これまで15回にわたって検討されてきた基本計画案の総まとめとなるものです。今後、この素案が1月中旬に予定されているパブリックコメントにかけられ、それを踏まえて最終案をつくり、3月に開催される次の整備委員会で基本計画が確定するという日程になっています。 ※市庁舎現在地利活用基本計画(素案) [keikakusoan_1.pdf \(city.kamakura.kanagawa.jp\)](http://city.kamakura.kanagawa.jp/keikakusoan_1.pdf)

この素案の「第2章導入機能」には新しい庁舎がやるべき具体的なサービスの概要が「ふみくら」のコンセプトのもとに書かれており、主に中央図書館機能と思われる「知識をひらく」の項には「郷土資料や近代史資料のデータを適切に整備し、データベースの適正化を図ります」「議会図書室や総務課行政資料コーナー、市内公共施設の図書コーナーなどとの連携を図ります」(p. 21)とあり、ほかの部分を含めTOTOMOの提言が生かされていると感じました。ただ、資料収集について「選書方法の多様化」という表現がありましたが、「方法」以前に「選書」それ自体の多様化が大事ではないでしょうか。

「多様な交流をむすぶ」の項には「市民活動等の場と設備の提供」のために「様々な市民活動ができる集会室」「市民活動団体等が優先的に使用可能なスペース」を用意するとしています(p. 23)。それに対応して「第4章施設計画」にある平面図には集会室が各階に分散していて、図書館や学習センターとは色分けされています(p. 54, 55)。この集会室の管理運営はどうなるのでしょうか。学習センターの会議室などを使用するには利用料金が発生します。他方、現在の中央図書館に多目的室があり図書館関係の市民団体は無料で使えます。NPOセンター機能も引き継ぐとすれば、やはり利用は無料です。市民団体が無料で利用できる集会室が十分確保されるのでしょうか。また、高齢者や障害者を含め誰にとっても使いやすい場にするユニバーサルデザインについて「導入機能」のどこにも触れていません。設計段階の重要ポイントとなるのは勿論ですが、基本計画でも重要な機能の一つとして示されるべきです。

さらに平面図に関して言えば2階の図書館スペースに書庫があり、貴重な資料を災害等から守るために2階に配置するのはよいと思いますが、一見したところ面積的にこれで足りるのか、今ある書庫資料さえ収蔵できないのではないかという疑問が生じます。また、この平面図には職員が使う事務室がありません。「各機能の融合のために事務室は一つにする」ようですが(p. 53)、公的施設と指定管理者等の民間業者の事務室を一つにするというのは無理があり、他都市にもあまり例がありません。「各機能」の働きを妨げない適切な事務室の配置を要望します。

最後に民間エリアについて素案には「パブリックマインドを持った民間事業者との連携を目指す」とし、幾種類かの民間事業者が例示されています(p. 19)。「導入機能」の章に民間機能の記述はなく、「第4章施設計画」の「民間エリア」の説明も「公共エリアと一体的な空間として計画します」(p. 53)の一言しかありません。前回の整備委員会の議事録を読むと委員からは「民間エリア」について多くの質問・意見が出ており、それを踏まえての素案のはずですが、今回も「民間企業に引かかる、何を期待しているのか」などの意見が出ました。これに対する市の答えは「答えるのが難しい」でした。「公共エリアがこの規模でいいのか」「ふみくら」が薄れている」という意見もあり「民間エリア」が全体の約4割を占める積極的な意義は不明のままです。「市民がどういうものを求めているか知るために市民中心の委員会をつくってはどうか」という意見も出ました。ぜひ検討してほしいです。基本設計についても案の段階で市民の意見が反映される必要があると考えるからです。(和田)

○鎌倉市では現在パブリックコメントを募集しています○
[鎌倉市／「鎌倉市市庁舎現在地利活用基本計画（素案）」に対する意見公募（パブリックコメント）について \(city.kamakura.kanagawa.jp\)](http://city.kamakura.kanagawa.jp/)

今小路西遺跡・陣出遺跡の勉強会報告

12月13日&20日 於：NPO センター鎌倉

昨年8月、市役所移転に伴う「鎌倉市市庁舎現在地利活用基本構想（素案）」へのパブリックコメントが募集された際、私は「この地は周知の『埋蔵文化財包蔵地』であり、歴史文化都市の果たすべき当然の責任として今小路西遺跡の発掘にむけた諸作業に早急に取り組む必要があると思います」と書きました。しかし市の回答は手応えのあるものではなく、とても残念でした。そして先ごろ、深沢地域整備事業区域内で昨年7月より土地区画整理事業に伴う陣出遺跡の発掘調査が行われ、古代にさかのぼる発見があったことを知り吃驚しました。

そこで、これら二つの遺跡の詳細を伺うべく、12月13日の例会時、文化財課の米澤雅美学芸員にお願いして勉強会をもちました。講義前半では鎌倉市全域の史跡・包蔵地を概観し、市が発掘調査をする理由とその手順、鎌倉の出土品の特徴などをお聴きしました。そして後半に、御成小校地で行われた9000㎡の発掘調査結果を詳しく教えていただきました。鎌倉時代の武家屋敷、町屋地域、被官屋敷、土塁や六角井戸、酒会壺を含む高級青磁の陶片出土のお話を聞いていると中世の町が立ち昇ってくるようでした。さらにお話は天平五年七月十四日/郷長丸子〇〇銘のある木簡が出土した古代郡衙跡へとつづき、茅ヶ崎市にある国指定遺跡の下寺尾官衙遺跡群との比較によってその稀少性がよくわかりました。

最後に、先に述べた陣出遺跡の発掘調査で古墳時代～奈良・平安時代の竪穴住居が現れたこと、縄文土器、敲石（たたきいし）、黒曜石片や弥生式土器、7世紀の須恵器や8世紀の土師器、銚帯（かたい）で使われる丸靱（まるとも）等の出土品の紹介がありました。わずか420㎡の調査範囲にもかかわらずこのように貴重な遺跡や出土品があったことにとても驚きました。と同時に今後の市の対応が気になり始めました。



文化財課 米澤学芸員のお話を聞く



馬淵和雄先生による遺跡図の解説を伺う

続く一週間後の例会では、瀧下勉強会のご紹介で馬淵和雄先生（一般社団法人 鎌倉中世文化研究センター、日本考古学協会埋蔵文化財保護対策委員会）を囲んで今小路西遺跡を勉強しました。先生は、現在地中保存されているこの遺跡は、県内の国史跡である川崎市高津区の「橘樹官衙遺跡群」や茅ヶ崎市の「下寺尾官衙遺跡」と同じく、古代・中世ともにきわめて重要な遺跡であることを強調されました。そして郡衙関連機構の位置と範囲、古東海道、駅路・伝路の観点からの説明、現庁舎直近の場所で白鳳時代の瓦が出土されたことなどを教えて頂くと、素人市民ながら、さらに興味はひろがっていきます。

身近な人に、子どもたちに、「どこを掘っても何かでる」と言われる鎌倉ならではの豊かさは共有されているだろうか？伝えてきたらどうか？「忘却の塵に埋もれさせぬのが歴史への礼儀である」とのこした澤寿郎元鎌倉図書館長の言葉を思い出して自省します。今を生きる私たちは、未来の鎌倉びとに、何をどのように遺し手渡していくのか？

学びを深めたく、来る1月28日の講演会を企画しました。ぜひご参集下さい。

（阿曾）

公共施設再編計画をどう考えるか

―鎌倉自治研センター主催の学習会に参加して―

11月25日に玉縄学習センターで開催された鎌倉地方自治研究センター主催の学習会に参加しました。テーマは公共施設再編計画です。これに参加した動機は、市庁舎移転に伴う図書館のリニューアルが深沢図書館の場合は規模縮小となり、中央図書館も多少の拡大程度にとどまる計画内容になっており、それでは求められる機能は果たせないのではと市に問うと、決まり文句のように「市には公共施設再編計画があり、それに基づいて計画がつけられているのでこうなる」という回答が返ってくるからです。

この計画が市民生活や街づくりにどのような影響をもたらし、市民としてそれをどうとらえるべきかを知るいい機会と考えて学習会に参加し、学ぶことが多かったので報告します。講師は奈良女子大学教授の中山徹さんで、生出演ではなく録画された映像でのお話でした。

公共施設再編計画は「公共施設等総合管理計画」とも言われ、計画の対象は建物だけでなく道路や橋などのインフラも含まれます。そして施設は削減・縮小しインフラは維持管理費を縮減するという削減型の自治体と、両者ともに長寿命化することを基本方針とする自治体に二分され、鎌倉市も含め多くの自治体の計画が前者の削減型になっているということでした。

削減型の計画をつくる最大の根拠となるのが少子化に伴う人口減少予測です。つまり人口が減っていくのだから施設も減らすというわけです。人口予測には「社人研」（国立社会保障・人口問題研究所）のものと「人口ビジョン」（国の基準に基づいた自治体独自の人口予測）の二つがあり、「社人研」のほうは現在の少子化がそのまま今後も続くともなして出された予測値で、有効な少子化対策は行われないことを前提にしています。

鎌倉市も「社人研」の予測値を採用し、2015年に策定された計画では2020年の人口は170,947人という予測でしたが、実際には172,710人で、人口減は進んでいます、予測を下回っています。市自身も子育てしやすい街づくりを目指しており、政策の実施と計画の手法に齟齬があります。他方で市は地域別、年齢層別の人口予測値を独自に作成しています。このように二つの基準を使い分けるのではなく「人口ビジョン」のほうに一本化すべきとのことでした。

では人口減が予測を下回るペースなら、それに合わせて施設を減らすのも緩やかにすればいいのかというと、ことはそう簡単ではありません。なぜなら公共施設は日常生活圏内に整備される必要があり、簡単に数を減らして空白地域をつくってはいけないからです。種類の違う公共施設を一つの建物に複合化する方法もありますが、それが各施設の機能低下を招くものになってはいけません。そのためには市民の意向を反映させる方法が重要になります。

そのための方法として一般的に考えられるのが「選択」と「参加」ですが、公共施設は地域に同種のものが複数あることはなく「コンビニのように選べない」ので「参加」が基本になる、むしろ「参加が最も機能しやすいのが行政」であり「直営でも市民の意向が反映されないのは参加の仕組みが機能していないからだ」と話されました。

さらに参加型の公共施設運営がなぜ重要かというと、様々なかたちでの参加が市民の学びと成長の場になり、行政職員も市民と協働することで成長する、それが全体として自治能力を高めることになるのだという講師の言葉が印象に残りました。最後に、説明抜きになりますが、削減型ではなく長寿命型の計画とすることが長い目で見れば人口減の緩和、経費節減、地域経済の活性化につながるという結論を紹介してこの報告を終わります。

(和田)

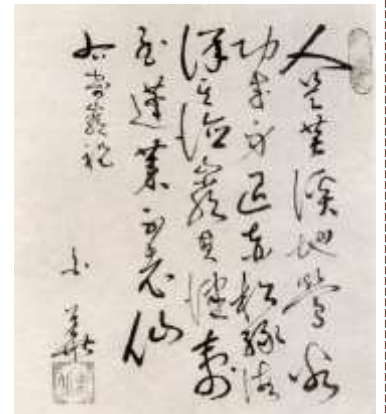
松坡先生が同じ教育者として交友を持ったのが菅原東丘でした。菅原東丘は明治2(1869)年、東京に生まれ、キリスト教牧師を志し青山学院に入学するも、導く人あって禅僧の道を歩んだという異色の経歴を持ちます。宗学林では教授を務め、大正期には鎌倉中学校(現鎌倉学園中学校・高等学校)の創立に尽力し(設立時の理事の一人)、同校第4代校長を務めました(1927.5.11～1942.12.11)。松坡先生と菅原東丘は同じ鎌倉町内の二校しかない私立中等学校の校長として教育のことについて親しく意見を交わしたに違いありません。また、東丘の娘さんは鎌倉高等女学校に通っていたそうです。

東丘に次のようなエピソードがあります。大正13(1924)年頃、『竹澤先生と云ふ人』を執筆中の長與善郎は新たに建てる扇ヶ谷の家の床の間の落とし掛けを「素肌のままの椿」にしたいと考えていました。鎌倉中学校卒業生で長與の作品に心酔していたある青年がそのことを知り、恩師で報国寺住職でもあった東丘を紹介したのです。長與が早速報国寺を訪ね、来意を述べると二つ返事で引き受け、すぐに椿の枝を伐ってくれました。家屋竣成後、長與は最初の客として東丘を迎えました。「この坊さん、^{なかくぼ}央渥みの妙な面相ながら眼はぎょろりとして」「禅学と漢学との素養も相当あることが知れた。それにわざと無頓着ぶった野狐^{やこげん}禅臭い嫌味もないのが気に入った」と東丘の第一印象を長與はその自伝的小説『わが心の遍歴』で記しています。その折、長與が東丘の都合のいい暇な時間に禅のいろはの手ほどきをと願ったところ、「中学校長も平気で内職する菅原さんの呑気すぎる所か、菩提心とでもいう親切心からか」、東丘は毎週一回、学校の帰りに亀ヶ谷を越えて長與の家に寄り、『無門関』の講話をし、30回ほど続いたそうです。『竹澤先生と云ふ人』に東洋思想の風味を加えたのは東

丘でした。

東丘にはまた昭和の不況と戦争の時代に校長として学校経営に苦しんだ逸話もあります。私立学校のことゆえ、なかなか生徒が集まらない中、校長も含め先生の給料を5年ほど続けて下げて、東丘自身の給料も165円から90円にまで下がったといいます。ただ、校長の給料が100円を割るというのは世間体も悪かろうと表向きは100円としていたとか(『鎌倉学園五十年のあゆみ』鎌倉学園1971)。

東丘は禅僧の常として漢詩をよくし、漢詩を通じて松坡先生と東丘は親しかったのです。松坡先生が主宰していた松社の詩会に東丘も参加しています。昭和6



『巖帖』に寄せられた菅原東丘の墨蹟
(1931)年1月25日

に鎌倉高等女学校内の尚綱堂^{しょうこうどう}で開かれた新年雅集は松社同人に加え、横須賀の滄社同人、この連載の第13回で紹介した島田日雅上人(東水)など26名が参加した賑やかな会でしたが、東丘も参加して聯句に加わっています。

そうした縁もあってか、連載第12回で紹介した春田源之丞(号は黄溪)の喜寿祝いの書画帖『^{いわおじょう}巖帖』に東丘も七言絶句を自ら認めて寄せています。教育者・宗教家・政財界人など多くの文化愛好家が育んだ鎌倉の薫り高い文化のありようが窺われます。

【訂正】前号(222号)の記事中に誤記がありました。右段13行目「(米吉か)」とあるのは「(梅吉か)」の誤りでした。訂正しておわびします。



『ハリーポッターと賢者の石』

(原題: *Harry Potter And The Sorcerer's Stone* (米))*Harry Potter and the Philosopher's Stone* (英))

(2001 年米・英制作／監督: クリス・コロンバス)

ワーナーブラザーズ配給 (日本公開 2001 年)

「かまくら銀幕上映会」ナビゲーター 田邊恵美

昨年 6 月、練馬区の豊島園跡地にオープンしたのが、ワーナーブラザーズの映画スタジオ。そう、ハリー・ポッターワールドですね。私、アミューズメントパークはやや苦手なので一生行く事は無いかと思いますが、プロモーションの一環なのか、アマゾンプライムビデオでハリーポッターシリーズが無料公開されているのは、良き事です。

イギリスは児童文学とファンタジーの宝庫。今も然り。J・K・ローリングが生活保護を受けながらカフェで執筆したハリーポッターシリーズは、原作者本人も映画にコミットする権利を持ちながら映画化が進み、スピンアウトシリーズのファンタスティック・ビーストでは脚本も担当。原作のファンも納得出来る、幸せな映画化路線となりました。

この第 1 作は 2001 年製作。そろそろ 4 半世紀前。当然 CG のレベルは今の方は格段に上がっています。古さが気になるかと思いきや、その思い込みは裏切られました。

ファンタジーのパート、魔法学校の世界は“いつの時代、何年前”と明示されておらず、ちょっとクラシックなイギリスのパブリックスクール風な設定になっている為、書かれた当時でも今でも、充分“古典的”。

全編 CG やセット撮影が多いかと思いきや、ハリーが透明マントを着て忍び込むスリリングな図書館のシーンは、オックスフォード大学ボドリアン図書館。他にも英国建築史上、貴重な建物での撮影を敢行。画面の得も言えぬ深みは、やはりこのようなロケ撮影あらばこそ！

かまくら銀幕上映会のお知らせ (主催: ドリーム・アーツ (03-5969-8081)) 於: 鎌倉芸術館小ホール

1/26 (金) 『ノートルダム 炎の大聖堂』

2/13 (火) 『午前4時にパリの夜は明ける』

2/28 (水) 『青いカフタンの仕立て屋』

3/11 (月) 『岸辺露伴ループルへ行く』

◎前売り券: 1000 円 (当日券: 1300 円) ◎上映時間①11:00～ ②14:00～☆上映スケジュールの確認は、鎌倉芸術館 (0467-48-5500) へ
☆受付で「田邊さんから聞いた」とおっしゃっていただければ、前売り料金でご覧いただけます。

今年度も「図書館振興基金」へ寄付をしました

12 月 6 日、TOTOMO は中央図書館へ「図書館振興基金」10,000 円を持参し、栗原館長にお渡ししました。

鎌倉市図書館 100 周年の 2011 年に制定された「鎌倉市図書館振興基金」。TOTOMO では、翌年 2012 年より、毎年 10,000 円を、2017 年には NP0 フェスティバルでの古本市の売り上げから 25,000 円を寄付しています。総額は 145,000 円になりました。今後も、図書館振興基金の行方を見守りながら、ささやかではありますが寄付を続けていきたいと思っています。

図書館振興基金 <https://lib.city.kamakura.kanagawa.jp/fund.html>



市民と図書館「住民が取り組む図書館職員問題」に参加して

2023年11月16～17日、岩手県盛岡市で行われた標記大会に参加しました。4年ぶりのリアル集会です。盛岡は初めての土地なので訪れたい場所は多々あったものの、タイトな旅程の中、16日の開会前にかろうじて見学できたのは岩手県立図書館のみ。とはいってものかねてから関心のあった盛岡ゆかりの人物についてレファレンスし、マイクロフィルム等で貴重資料の閲覧ができたことは幸いでした。

翌日午後、図書館友の会全国連絡会(略称:図友連)は第14分科会を主催しました。今年のテーマは「住民が取り組む図書館職員問題」です。分科会では、まず公務非正規女性全国ネットワーク(略称:はむねっと)共同代表の渡辺百合子氏による基調講演を行い、その後、高梨富佐氏(子ども読書コミュニティプロジェクトみやぎ)、八代よみ子氏(匿名・非正規職員代表)、佐久間美紀子氏(静岡図書館友の会)を加えてのパネルディスカッションという内容です。

図友連には現在64団体125個人の会員がおり、それぞれの地域課題を抱えつつ日々活動しています。しかし、職員体制に問題のない図書館は皆無といってよく、全国いずれにおいても正規職員司書が減り、会計年度任用職員や指定管理者等雇用の非正規職員が増える厳しい状況です。図書館サービスの質や継続性を維持するには司書の専門性と経験の蓄積が不可欠であるにも関わらず、図書館の非正規率が80%近くに上り他業種と比べても高く、職員の女性比率も90%を超えています。持続可能で良質の図書館サービスを期待する市民としては決して見過ごすことのできない不安定な職場状況です。集会では、近年実施された、はむねっと等3団体によるアンケート調査結果や、狭山市でおきた図書館会計年度任用職員大量解雇の実態が報告されると共に、「正規司書の募集が極めて少ないため、大学では司書資格の取得希望者が年々減少している」との懸念が語られ、強い危機感がこみ上げました。図書館に限らず、働く「ひと」の拡充や待遇改善は、もはや待ったなしではないでしょうか。当日は、東北各県を中心に全国からの参加者があり、終了後の交流会にもぎやかでした。顔を合わせて意見を交わし、大いに笑い、住民目線の職員調査など、問題解決に向けた取組みにしっかりつなげていこうと話合いました。分科会参加者は38名でした。

翌日、福島県の須賀川市中央図書館と白河市立図書館を見学しました。いずれも鎌倉市の職員さんが今年度視察に赴き、連続講座第4回でその報告を伺った図書館ですが、その時には掴めなかった違和感や、HP記事等では見えない気づきがありました。百聞は一見に如かず！ 鎌倉の新しい図書館が今後一層充実したものになるよう、これからも積極的に図書館見学の機会を作っていきたいと思いつつ帰途につきました。(阿曾)

ファンタスティック☆ライブラリー112

年に一度の図書館まつり！ 皆さまのご来場お待ちしております！！申し込み不要・無料！！

日時:2月4日(日)・5日(月) 会場:鎌倉市中央図書館(☎0467-25-2611)

☆TOTOMOのお宝展

TOTOMOが保管している作家さんの絵や寄贈本を展示 1階展示コーナー

☆間島弟彦・間島愛子夫妻 旌徳の会

間島ご夫妻の寄贈本とゆかりの人々に関するパネル展示 3階ギャラリー

講演会「鎌倉市中央図書館所蔵 間島愛子氏寄贈資料について」

講師:中田孝信氏 2月5日(月)14時～16時 3階多目的室にて

☆おはなしひこうせん …ようこそTOTOMO図書館へ 世界のおはなしいろいろ…

パネルと絵本の展示・おはなし会・絵本でカルタ 1階児童コーナーにて

4日(日)10時半～／13時半～ おはなし会と絵本でカルタ

5日(月)10時半～／13時半～ 赤ちゃんパパとママのおはなし会 15時～ 絵本でカルタ

☆松坡文庫研究会、かまくら女性史の会、図書館による展示・講演会・読書会などもお楽しみに！



ボラ協交流会のご案内：2月15日(木)10～14時、福祉センター2階で交流会を行います！

「ボラ協マルシェ」と名付け、活動発表のほかに福祉作業所のパンやお菓子の販売や、珈琲野郎さんによるコーヒーサービスもあります。おはなしひこうせんメンバーが「布絵本グループはこべ」さんの作品を駆使しておはなし会を行いますので、こちらも必見です。みなさまのご参加をお待ちしています。

2023 年度活動報告

〈重点事業〉

- ① 市庁舎移転に伴う図書館のこれからを考える活動
- ② 司書採用の継続の見守りと図書館司書の専門性を幅広く理解してもらうための活動
- ③ 読書バリアフリー法をふまえた図書館の障がい者サービスに向けた取り組み
- ④ 旧図書館保全活動
- ⑤ ファンタスティック☆ライブラリーへの企画・参加
- ⑥ NPO フェスティバル、地下道ギャラリー展、その他イベントへの参加

COVID - 19 も第 5 類となり活動範囲も広がってまいりました。TOTOMO は発足 25 周年を迎えました。

①25 周年事業として「これからの図書館にのぞむこと」をメインテーマに連続講座を 5 回行いました。その後、市長と教育長に要望書（「これからの図書館について」）を提出し、要望書に『これからの鎌倉の図書館にのぞむ市民の提言』と題した提言書を添えました。②2023 年度に司書の正規職員採用募集は残念なことにありませんでしたが、4 月から新人の司書の方 2 名が働いています。③鎌倉市図書館でのバリアフリーの取り組みについて学習会を総会後に行いました。さらに⑤の 2023 年 2 月 4 日（土）のファンタスティック☆ライブラリーにおいて「バリアフリーってなあに？」をテーマに展示とおはなし会でも取り組みました。④旧図書館が新しく 3 月 27 日に子どもの家「放課後かまくらっ子おなり」として開館しました。開館日より先立ち 3 月 21 日の午前中には式典が、午後には希望者の内覧会が行われました。外観は旧図書館がかなり再現されています。⑥NPO フェスティバル参加。その他として④市史編纂事業の再開を求める陳情を行い、採択されました。㊤「多摩市立中央図書館」と「ゆいの森あらかわ」の図書館を見学しました。㊦埋蔵文化財について市役所文化財課の出前講座と講師による勉強会を行いました。㊧その他必要と思われる傍聴や勉強会を行いました。

2024 年度活動計画（案）

〈重点事業〉

- ① 市庁舎移転に伴う図書館のこれからを考える活動
- ② 司書採用の継続の見守りと図書館司書の専門性を幅広く理解してもらうための活動
- ③ 学校図書館司書についての現状を把握し、理解してもらうための活動
- ④ ファンタスティック☆ライブラリーへの企画・参加

市庁舎移転に伴い 2 つの図書館を考えることは 2024 年度も重点事業としました。さらに図書館司書・学校図書館司書の重要性について理解してもらうための活動も行う予定です。2024 年 2 月 4 日（日）・5 日（月）に行われるファンタスティック☆ライブラリーに参加いたします。今年度は図書館の休館日も利用して開催されます。その他、旧図書館については 登録有形文化財となることを願って注視していきたいと思っております。ほかにも NPO フェスティバル、地下道ギャラリー展等、とにかく出来ることをできる範囲で取り組んでいきたいと思っています。

皆様からのご意見ご感想は私たちにとってたいへん励みとなっています。本年もご協力どうぞよろしくお願い致します。



《2023年度 TOTOMO 活動のご報告です》

〇間島弟彦・間島愛子夫妻 旌徳の会 報告〇

2023 年春、8 年の歳月を経て「旧図書館」の修復が完成し、子どものための施設として生まれ変わりました。

修復完成に合わせ、2 月のファンタスティック☆ライブラリー111 ではこの図書館の建設に多額の寄附をし、沢山の本を寄贈した間島夫妻の功績をパネル展示で紹介しました。

また、間島夫妻は母校、青山学院の図書館建設にも多額の寄附を行っています。そこで、7 月には青山学院校友会湘南支部の展覧会に参加し、青学の「間島記念図書館」と鎌倉の「旧図書館」の2つの図書館をテーマにして、あらためて校友の方々に夫妻の事績を知って頂く良い機会となりました。

秋には谷中霊園にある間島家の墓所、青山霊園の間島夫妻やご子息のお墓をお訪ねし、皆で手を合わせました。

図書館の建物に続き、次は中身の本の調査です。9 月から間島夫妻の寄贈本（全部で 139 冊あるそうですが）の内、約 40 冊を手にとって丁寧に調べました。有名な著者からの献呈署名があったり、ステキな装幀の特装本だったり・・・明治から昭和にかけての貴重書が所蔵されている鎌倉図書館の歴史を肌で感じ、その重みを知ることができました。

（鈴木）



〇おはなしひろくせん報告〇



2023 年は様々な活動をした一年でした。2 月 4 日に深沢学習センターで 4 年ぶりに皆が集まってファンタスティック☆ライブラリーが行われ、「バリアフリーって、なあに？」をテーマにパネル展示とおはなし会を行いました。2022 年の NPO フェスティバルで知り合ったユニバーサル絵本ライブラリー UniLeaf さんへ 3 月に見学に行き、その後、絵本の貸し出し作業のお手伝いに 8 回、絵本の修理などの作業会に 4 回、メンバーの有志が参加しました。6 月は本の海サポーターズ交流会、8 月は夏の遠足で神奈川近代文学館とオレンジ&レモン文庫訪問、9 月は子育てサロンぽっけでのおはなし会、11 月は第二中学校でのおはなし講座、12 月は NPO フェスティバルでおはなし会&絵本でカルタを行いました。

毎月の勉強会では、絵本・紙芝居の紹介や情報交換、イベントの準備等を行いました。（杉崎）

〇読書会報告〇

2023 年最初の読書会では、テーマ本の『鎌倉 花和尚独語』の著者で瑞泉寺ご住職の大下一真氏をお迎えし、著書やお寺にまつわるいろいろなお話を伺うことができました。

猛暑の時期を外し、今年度は 5 回の開催でした。常連のメンバーは 6 名ほどですが、大下氏をお迎えした際や、『闘う図書館』がテーマ本の時には、初めての方や久しぶりの参加者があり、話が盛り上がりました。ざっくばらんな会なので、本を読んでもいいなくても、お気軽にご参加ください。こんな本をテーマ本にしてほしいといったリクエストも大歓迎です。

（杉崎）



〇ととも朗読の会〇



保育園みつばち 絵本読み 毎月 1 回

4 歳、5 歳、6 歳の子ども達が 30 人程。椅子に座って絵本を見てくれます。絵本 4 冊を選び、どんな感じになるかなと思って、伺っています。読み手の私達 2 人にとって幸せな時間です。

（中村）

日時：2024年1月28日（日） 10:00~12:00
場所：中央図書館 3F 多目的室

○午後には、永野征男先生(日本大名誉教授)を講師にお迎えして、講演会を企画しています。
ぜひご参加下さい

講演会：『御成小校地の埋蔵文化財：茅ヶ崎北陵高校々地との対比を通して』

講師：永野征男氏(日本大名譽教授)

日時：14：00～16：00

申込：30名（先着順 無料） メールまたはFAXで

■メール toshokantomodachi@gmail.com (図書館とともだち・鎌倉事務局)

■ FAX 0467-45-5731 (阿曾)

◎年会費納入と会員拡大のご協力のお願い◎

「図書館とともだち・鎌倉(通称 TOTOMO)」は、会員の皆様の会費によって運営されています。本年も「図書館とともだち・鎌倉」の活動が充実したものととなりますよう、会費の納入をお願いいたします。

24 年度会費(1-12 月分)一口 1,000 円

ゆうちょ銀行振替口座番号 00230-5-16611

ゆうちょ銀行振替口座名 図書館とともだち・鎌倉



2023 年度 ご寄付くださった方々

☆2023 年度も多くの方にご寄付をいただきました。ここにご報告し、心よりお礼申し上げます。

木村みどり・関根肇・鈴木保美・山下すみ子・和田安弘・古矢良子・古矢史於・長野ヒデ子
高橋円・菅孝能・斉木まき子・尾辻詩乃・今泉信子・福富昭江・綱島覚・夏梅安代・木村ゆき
渡邊久美子・大木禮子・森下芳則・高柴圭子・津村留美・山口源治郎・阿曾千代子・大山文子
黒瀬聖子・福田曜子・星美由紀・その他匿名の方々。 (ご寄付いただいた順、敬称略)

TOTOMO活動日誌 (11/29~1/17)

12/2, 3	NPOフェスティバル参加	12/20	遺跡発掘調査勉強会（馬淵先生）
12/4	ゆいの森あらかわ見学会	12/21	おはなしひろくせん勉強会
12/6	間島弟彦・間島愛子夫妻旌徳の会	12/21	ボランティア連絡協議会委員会出席
12/7	Unileaf お手伝い	12/26	会計監査
12/13	遺跡発掘調査勉強会（文化財課米澤氏）	1/11	Unileaf お手伝い
12/14	Unileaf 作業会参加	1/11	ボランティア連絡協議会役員会出席
12/14	協働事業推進部会出席		
12/19	ひろくせんれんぎょ & 文庫訪問	ロビー活動	随時
12/20	第16回本庁舎等整備委員会傍聴	定例会5回	(12/6, 13, 20, 1/10, 17)



COMING NEXT ! 事務局からのお知らせ

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。

第26回 2023年度会員総会

日 時：1月28日（日）10時～12時 場 所：鎌倉市中央図書館3階多目的室
今までの活動を振り返り、今後の活動につなげるために今年度も会員総会を行います。
詳しいご案内は、添付の総会資料をご参照ください。
お問い合わせは、黒瀬（TEL/FAX 0467-22-8545）まで。

講演会 御成小校地の埋蔵文化財：茅ヶ崎北稜高校々地との対比を通して

講 師：永野征男氏（日本大名誉教授）

日 時：1月28日（日）14時～16時 会 場：鎌倉市中央図書館3階多目的室
申込み：30名（先着順・無料）電子メールまたは、FAXで。

■電子メール toshokantomodachi@gmail.com（図書館とともだち・鎌倉 事務局）

■FAX 0467-45-5731（阿曾）

件名を「講演会申込」、本文に氏名フリガナ、電話番号をご記入ください。

ファンタスティック☆ライブラリー112

日 時：2月4日（日）・5日（月）10時～16時 会 場：鎌倉市中央図書館
TOTOMOのお宝展、間島弟彦・間島愛子夫妻旌徳の会の展示と講演会、おはなしひこう
せんのパネル展示・おはなし会・絵本でカルタで参加します。詳細は、12ページをご参照
ください。お問い合わせは、鎌倉市中央図書館（TEL0467-25-2611）まで。

おはなしひこうせん勉強会

日 時：1月18日（木）10時～12時 場 所：福祉センター
テーマ：ファンタスティック☆ライブラリーの準備とおはなし会の打ち合わせを行います。
お問い合わせは、黒瀬（TEL/FAX 0467-22-8545）まで。

読 書 会

日 時：1月26日（金）11時～12時半 場 所：NPOセンター鎌倉
テーマ本：内山節著『日本人はなぜキツネにだまされなくなったのか』（講談社現代新書）、
東直子著『とりつくしま』（ちくま文庫）です。皆さまのご参加お待ちしております。
お問い合わせは、杉崎（TEL/FAX 0467-41-4956）まで。

間島弟彦・間島愛子夫妻 旌徳の会

日 時：2月7日（水）13時半～16時半 場 所：NPOセンター鎌倉
お問い合わせは、鈴木（TEL 090-4728-5242）まで。

☆図書館友の会全国連絡会

「ユネスコ公共図書館宣言 2022」（図友連仮訳）をHPで公表しました。ぜひご覧ください。
お問い合わせは、阿曾（TEL/FAX 0467-45-5731）まで。

編集後記 * * * * *

☆昨年はイベントが多く、会報も盛りだくさんでした。今年はどんな一年になるかな。（A.S）
☆2024年は大変な年明けとなりました。被災地の皆さんに、一日も早く平穏な日常
が戻ってきますように。（M.S）



題字・巻末カット：小島寅雄 2024年1月17日発行
図書館とともだち・鎌倉（代表：水岡やす子） 編集：阿曾・黒瀬・杉崎・斉木
事務局：〒248-0005 鎌倉市雪ノ下1-14-34（黒瀬）TEL/FAX 0467-22-8545
HP：<https://totomo.sakura.ne.jp> E-mail：toshokantomodachi@gmail.com

